

神奈川県観光振興計画平成26年度事業実施結果の総合評価（案）

大柱1「魅力ある観光地の形成」について

平成24年度及び25年度に「新たな観光の核づくり構想地域」として県が認定した3地域の構想実現に向けて「新たな観光の核づくり等促進交付金」を創設し、各地域における先導的な取組を支援するとともに、「かながわシープロジェクト」の推進など、県内の新しい観光魅力づくりに取り組んだことは評価できる。

また、「新たな観光の核づくり構想地域」を含め、神奈川ならではの観光資源を取り込んだ周遊型・滞在型旅行商品を開発し、全国規模で観光PRを行うとともに、着地型旅行商品の磨き上げ、改善支援、販路開拓を通して、多様な観光ニーズに応じた商品開発に取り組んでいる点は評価する。

さらに、平成26年度の圏央道相模原愛川IC～高尾山ICの開通及びさがみ縦貫道路の全面開通を契機とした観光キャンペーンに力を入れているところであるが、北関東方面からの誘客促進に継続して取り組むとともに、北陸新幹線開業などの広域交通網整備の進展を活かし、北陸方面など、新しい地域をターゲットとした観光プロモーション活動を積極的に展開する必要がある。

大柱2「外国人観光客の誘客促進」について

国や近隣県などと連携し、日本への訪日旅行客が増加傾向にある国や地域を見据えた効果的なプロモーションを実施するとともに、外国人観光客誘客に取り組む行政や観光関係団体等を対象としたセミナーを継続し、外国人観光客の誘致と受入体制整備の両面に取り組んだ点は評価できる。

訪日外客数が急速に伸びている状況から、引き続き市場特性に応じたプロモーションや効果的な情報発信に取り組むとともに、今後は外国人観光客のニーズが高い観光案内表示の充実や県内の主要観光地でのWiFi環境の整備促進など、受入体制整備を加速させる必要がある。

大柱3「観光関連産業の成長促進」について

平成25年度に引き続き、県内産農産物など県産品の展示・販売を行う物産展を台湾で開催するとともに、香港での国際食品見本市「FOOD EXPO」に初の神奈川県ブースを出展し、海外における県産品の販路拡大を継続的かつ範囲を広げて実施した点は評価できる。

今後とも国内外に対し、県産品の魅力を発信する様々な取組を進めるとともに、県産品を使った新商品開発を促進するなど、さらなる観光客及び観光消費額の増加に努める必要がある。

また、大学と連携した「かながわ移動観光大学」等を通じた観光分野の人材育成などにより、地域の活性化や観光産業の振興に引き続き取り組んでいく必要がある。

総括

平成26年の延べ宿泊者数（速報値）は目標値を下回ったものの、前年からは増加した。また、外国人については、本県の訪問者数及び延べ宿泊者数（速報値）とも、目標を上回った。引き続き、地域資源の磨き上げを行い、県内外から多くの人を引きつける観光地づくりを進めるとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催決定などを契機として、急速に増加している外国人観光客の誘客促進のために、プロモーションの強化や快適な旅ができる環境づくりなどに取り組む必要がある。

また、地域経済は回復基調にあると言われており、日帰り客の観光消費額が目標を上回り、観光消費額の総額は目標をほぼ達成したものの、宿泊客の観光消費額は前年度実績よりも減少し、目標値を下回った。今後は、身近な旅のニーズに応えるために、様々な地域資源を活用した旅行商品のさらなる販売促進とともに、県内の旅館・ホテルで使用可能な「ふるさと旅行券」の発行などにより、日帰り客、宿泊客ともに消費喚起を図る取組を実施する必要がある。

引き続き、市町村や観光関係事業者等、様々な主体と連携、協働し、観光振興を推進する必要がある。

なお、今後増加が見込まれる観光客が安全に安心して旅行を楽しめるように、災害時など、観光客にも被害が及ぶおそれがある際は、安全第一の観点から、正しい情報収集に努め、それを適時に発信することを徹底する必要がある。